



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

|               |  |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ       | 【 III 】  |
| 2 実施対象者       | 京都市立久世西小学校<br>4年生…1組35名, 2組33人, 3組34人, 育成3名<br>育成学級3年生…1名, 教員…4名 合計…110名   |
| 3 展開の形式       | (1) 学校における活動<br>① 教科名 (総合的な学習の時間)<br>② 行事名 ( )<br>③ その他 ( )<br>(2) 地域における活動<br>① イベント名 ( )<br>② その他 ( )  |
| 4 目標<br>(ねらい) | 障害者スポーツ選手を招いた講演や競技実技体験、車いす体験などを通して、オリンピック・パラリンピックについて知るとともに、障害のある人に対する理解を深めることができるようにする。   |
| 5 取組内容        | <p>◆事前学習</p> <p>○福祉をテーマとした「ともに生きる」の学習を進める。(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者等から話を聞き、自分たちにできることは何か考える。</li> </ul> <p>○オリンピック・パラリンピックにかかわる人の思いについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なエピソードからオリンピック・パラリンピックの意義を考える。</li> </ul> <p>◆当日の学習</p> <p>(1) はじめの挨拶、講師と選手の紹介</p> <p>(2) 講師の方からのお話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの仕組みや操作方法</li> <li>・車いすバスケットボールについて</li> </ul>  <p>(3) 車いす体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前に進む</li> <li>・方向転換</li> <li>・コーンを回る</li> <li>・後ろ向きに進む</li> </ul> <p>(4) 車いすパスゲーム体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5分×3試合 (1組対2組, 2組対3組, 3組対1組)</li> </ul> |

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合には、各組「5名+車いすバスケ選手1名」が出場</li> <li>・1試合目と2試合目では、違う児童が出場</li> <li>・出場する児童以外は、応援</li> </ul>  <p>(5) 選手の方からのお話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすでの生活になった経緯、絶望と希望</li> <li>・車いすバスケットボール選手になるきっかけ</li> <li>・日常生活や選手としての生活</li> <li>・車いすでの生活になってからできるようになったこと</li> <li>・子ども達に伝えたいこと</li> </ul> <p>(6) 終わりの言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感想発表</li> </ul> <p>◆事後学習<br/>     わかったことの発表、及び交流をする。<br/>     自分たちにできることを考え、発表する。</p> |
| <p>6 主な成果</p>                        | <p>○障害者スポーツ（車いすバスケットボール）について知ることができ、東京オリンピック、パラリンピックを応援する気運が高まりつつある。</p> <p>○スポーツの価値について考えることができた。</p> <p>○障害のある方から実生活や社会生活をどのように考えて送っているのかといった話を直接聞かせていただくことにより、共生社会の必要性について考えることができた。</p> <p>○障害の有無に関わらず、全ての人がともに生きる町・社会づくりについて考えることができた。</p>  |
| <p>7実践において工夫した点<br/>     (事業の特色)</p> | <p>○4年生なので、車いすバスケットボールをすることは難しいと考え、パスゲーム用のゴール（低いもの）を使ってゲームを行った。</p> <p>○前半の話を短くして早目に車いす体験に取り組むことで、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを満たし、パスゲーム体験を通して子どもたちの気持ちを盛り上げることで、子どもたちが良い気分での話の聞いたり考えたりすることができるようにした。</p>  |
| <p>8主な課題等</p>                        | <p>○選手と自由に話をしたり質問をしたりする時間がとれなかった。寒い時期であったので2時間という時間は適切だったと思うが、給食交流など、気軽に対話ができる時間を取れば良かった。そうすれば障害者スポーツ選手のことをより身近に感じることができたと思う。</p> <p>○子ども達は素晴らしいプレーを見て、スポーツ選手として憧れを抱いていた。4～5名の選手に来ていただけたら、より良い交流の時間になると思う。</p>   |
| <p>9来年度以降の実施予定</p>                   | <p>次年度の4年生も、今年度同様、総合的な学習の時間において福祉をテーマとした学習を進める予定である。車いすバスケットボールなど、できるだけ多くの体験的な活動を取り入れることで、障害を持つ人たちにとってスポーツに取り組むことがどのような意義をもつことなのか、実感を伴った理解ができるようにしたい。そして、障害のあるなしにかかわらず、人間が生きていくうえで、あきらめずに目標に向かっていくことの大切さや尊さに気づき、それを互いに支え合っていこうとする態度を育てていきたい。</p>   |